

さぬきかわ村

No  
177

令和6年8月

みんなの

議会だより

題字：鮫川小学校

すとう かなで  
6年 須藤 叶悠さん



6  
月  
定  
例  
会

令和6年度 一般・特別・公営企業会計 補正予算の可決	2~3
議案調査・研修会レポート	4
一般質問に8議員登壇	5~13
ふるさと鮫川への想い	14

# 通実証運行継続

6月  
定例会



## 利用者のニーズに柔軟に対応



6月定例会の  
あらまし

6月定例会が6月10日から12日までの3日間の会期で開催されました。  
第1日目に、一般質問を行い8名の議員が登壇し、将来を見据えた若者の定住促進策や村の教育支援事業、手まめ館事業の今後の取り組みなど様々な問題を取り上げ、村政を質しました。  
次に、報告2件の内容の説明後、条例の一部改正7件、令和6年度補正予算7件、村道路

線の認定や辺地計画の変更の提案理由の説明がありました。  
第2日目に、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会を開き、議案を審議しました。最終日に、審議した条例、補正予算等を含む16件を原案どおり可決しました。  
また、請願1件を採択し、議員発議により意見書の提出1件を追加提出し、原案どおり可決しました。

### 報告

繰越明許費繰越計算書について

一般会計（令和5年度）11事業の報告

事業名	金額
地方創生推進事業	5,806,000円
光ファイバ網維持管理事業	3,121,000円
臨時特別給付金給付事業	11,852,000円
戸籍住民基本台帳整備事業	9,108,000円
こども計画策定事業	6,138,000円
ふくしま森林再生事業	60,652,000円
広葉樹林再生事業	41,999,000円
道路舗装補修事業	491,000円
護岸整備事業	8,220,000円
義務教育体制整備事業	4,840,000円
公共土木施設災害復旧事業	85,452,000円
合計	237,679,000円

### 主な条例改正

鮫川村附属機関設置条例の一部改正

附属機関として、新たに子ども子育て会議を加える改正

鮫川村奨学基金設置条例の一部改正

奨学基金に寄附があったため、基金の額等、所要の改正

鮫川村鹿角平観光牧場設置条例の一部改正

◎コテージ使用料

〔泊あたり一棟〕20000円→24000円  
〔日帰り一棟〕10000円→12000円

◎バンガロー使用料

〔泊あたり一棟〕3000円→4000円  
〔日帰り一棟〕2000円→3000円

# 補正 予算 一般会計

# 生活の 足を確保

# デマンド交

## 補正予算の状況

会計別		補正額	補正後の予算額	議決状況
一般会計		7592万円	31億2092万円	全員賛成
特別会計	国保			
	事業勘定	548万円	4億2195万円	全員賛成
	直診勘定	0	5604万円	全員賛成
	村営バス事業	0	782万円	全員賛成
	介護保険	△46万円	5億2870万円	全員賛成
	学校給食センター	610万円	1億4万円	全員賛成
合計		8704万円	42億3547万円	
公営企業会計		補正額	補正後の予算額	議決状況
簡易水道事業	収益的収入	△16万円	6687万円	全員賛成
	収益的支出	△16万円	8508万円	



## 補正予算の主な事業

歳入	地域振興費寄附金	250万円	
	良好な環境創出活動推進モデル事業助成金	300万円	
	辺地対策事業債	鹿角平観光牧場水井戸整備事業	50万円
		村道菅ノ目浅川線舗装補修事業	1210万円
村道姿平鹿角平線舗装補修事業		60万円	
歳出	デマンド交通乗降システム実証業務 バス予約やバスの位置情報等を確認できるタブレットを村内の公共施設等に設置	280万円	
	良好な環境創出活動推進調査業務 環境省のモデル事業を活用し、村の自然や文化の保全を通じた地域活性化等のための調査(水生生物環境DNA調査・水生生物の鳴き声調査)を委託	333万円	
	賃借料 デマンド交通車両へ自動体外式除細動器を搭載	7万円	
	工事請負費 納税を推進するための電光掲示板を役場敷地内に設置	193万円	
	委託料 渡瀬橋橋梁補修設計業務 馬場上橋橋梁調査業務	822万円	
	修繕料 教員住宅石油給湯設備修繕	31万円	
修繕料 小学校6年生教室FF式暖房機修繕	38万円		



# 議案調査

## 良好な環境創出活動 推進調査業務に333万円

令和6年度一般・特別公営企業会計補正予算を総務  
文教・産業厚生両常任委員会で調査しました。

### 文教委員会 総務常任委員会

問 良好な環境創出活動推進調査業務  
333万円

答 自然の豊かさを数値化する環境省補助  
のモデル事業

問 デマンド交通乗降システム実証業務 280万円

答 村内の公共施設等にタブレットを設置

問 屋外電光掲示板設置工事 192万円

答 役場前に情報用電光掲示板を設置

### 産業厚生 常任委員会

問 地域力創造アドバイザー業務 560万円

答 業者に委託し村にあるビジネスにつな  
がる種を探して、ビジネスモデルを提  
案してもらう事業

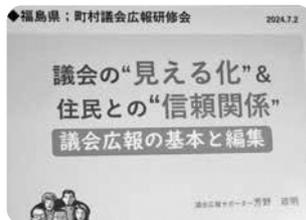
問 渡瀬橋梁補修設計業務 71万円

答 5年毎の橋梁点検  
来年補修工事予定の単価増額

## 研修会 レポート

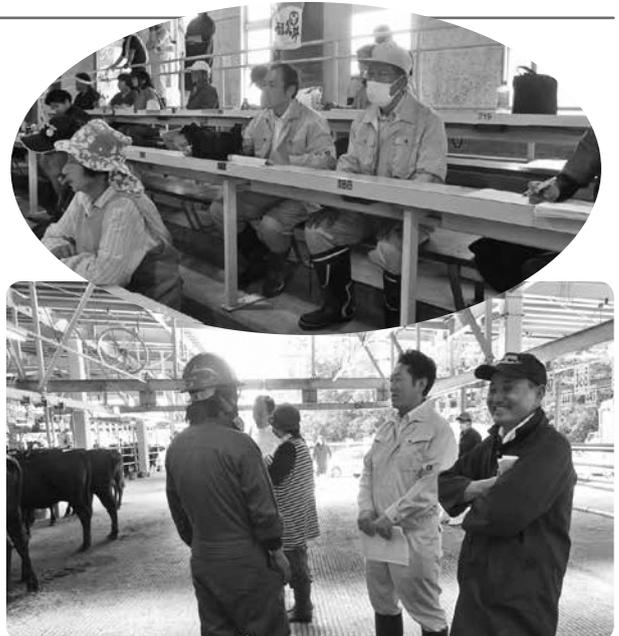
### 7/2 町村議会広報研修会

議会広報サポーター芳野政明氏から議会広報の基  
本と編集を学び、今後の紙面作りに役立てていく。



### 7/4 家畜市場視察(本宮市)

畜産経営の現状を把握するため、現地調査を実施。  
ここ数ヶ月、取引価格が低迷しているようである。



# 議員 8人が登壇 **ズバリ!!** 村政を問う!

P 6



みどりかわ しげる  
**緑川 茂** 議員

- 若者の定住促進策
- 鹿角平牧場内村道補修
- デマンド交通実証運行

P 10



あおと よしゆき  
**青戸 義之** 議員

- 手まめ館事業の今後
- 義務教育学校の進捗状況

P 7



ほうじょう としお  
**北條 利雄** 議員

- 公共施設マネジメント
- 指定管理者制度の評価・検証
- 東京農大との連携協定

P 11



ほんごう ひろし  
**本郷 弘義** 議員

- 村道路維持管理
- 高齢者のスマホ利用

P 8



もり たかゆき  
**森 隆之** 議員

- 村の教育支援事業

P 12



えんどう たかひと  
**遠藤 貴人** 議員

- 国民健康保険

P 9



もり た しげお  
**森田 重男** 議員

- トレセン駐車場の防犯灯

P 13



くぼ き こういち  
**窪木 浩一** 議員

- 公共施設老朽化
- 国道349号道路改修
- さめがわファンクラブ



**議事の進行**

まえ た たけひさ  
**前田 武久** 議長

一般質問は、議員の日常生活を通じて、住民の声や自身の考え方をもとに、村長、教育長などの方針を問うものです。鮫川村議会は、一人あたり90分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。



緑川 茂議員

# 問 将来を見据えた若者の定住対策は

# 答 子育て応援体制の一層充実を図る

### 質問

先般の新聞等の報道において、民間の有識者でつくる「人口戦略会議」が将来の人口推計を基に消滅可能性がある自治体を公表して話題となった。本村を含む県内の7割の市町村が該当するとのことである。この警鐘を前向きに捉え将来を見据えての対応策を講じる必要がある。特に若者の定住対策が重要であると思うが村長の認識と打開策は。

### 答弁(村長)

この公表に少子化や人口減少への危機感を一層強めたところである。現在45歳以下の若者の住宅取得に対し移住定住補助金を交付している。また、結婚祝い事業や出産祝金、小中学校入学祝金、給食費無償化等を行っている。更に高校進学支援金等、生まれる前から高校まで切れ目のない子育て支援を実施している。若い世代に村の魅力を感じ、この村に住む

### 再質問

村の中心部に宅地分譲地を確保することも定住促進を図る面から検討すべきと思うが。

### 答弁(村長)

今後複合施設として、公園、高齢者集合住宅、学校、全て含めた中で検討する。

### 質問

鹿角平観光牧場は本村を代表する観光施設である。国道289号バ

### 答

来年度から改良工事を実施する

### 問

鹿角平牧場内村道補修の見通しは

### 再質問

舗装補修ではなく拡幅しての改良工事が。また、実施範囲は。

### 答弁(村長)

村道全延長を現道拡幅して改良舗装を行なう。

### 答弁(村長)

最初の舗装から既に30数年経過しており、舗装の痛みも激しい状態となっている。今年度採択された、国の地方創生道整備推進交付金を活用して今年度中に村道改良工事の測量設計業務を行なう。施工は令和7年度から10年度の4年間で道路改良工事を実施する。

### 問 デマンド交通実証運行の経過は

### 答 運行範囲拡大等利用促進に努める

### 質問

デマンド交通は、交通弱者の足の確保と村民の交通の利便性向上を図る上で、機能的な移動手段である。実証運行が昨年11月から始まり来年3月まで行われるが、現在の利用状況と本格運行に向けての実証経過は。

### 答弁(村長)

5月末時点で利用登録者数174人、乗車人数324人で1日当たりの平均乗車人数は約2.1人である。登録者数の半数が70歳以上の高齢者が占めている。利用の目的は、厚生病院が多く、続いて村内の施設である。今後、国の実証プロジェクト事業の採択を受け、福祉事業者との連携強化を図る。また、一目で分かる乗降システムの導入等の事業を8月から展開する。本格運行に向けた協議を進めており、運行範囲の拡大など村民の更なる利用促進に努める。



来年度から改良整備される村道姿平鹿角平緑



北條 利雄 議員

## 問 公共施設の管理や経営は

## 答 ニーズを捉えて柔軟に対応する

### 質問

公共施設の経営資源（ヒト・モノ・カネ）を効率的に活用し、リスク管理のもとに、「目標」や「使命や役割、存在意義」の達成を目指すもの。施設マネジメント（管理と経営）の戦略的な計画を立て、適切な施策を実施していくことが求められる。公共施設を取り巻く課題、マネジメントに対する基本的な考え方の推進体制、今後の進め方は。

### 答弁(村長)

人口減少による税収減に伴い、老朽化していく施設全てを維持していくことは容易ではない。少子高齢化が進んで人口の構造が変わると、公共施設の使われ方やニーズも変化する。施設の保有量の最適化、有効活用、適切な施設の有り方も財源に限りがあり、ニーズを捉えて柔軟に対応していく。全体的な進捗状況の管理等を行い、現状把握をしながら進めて行く。



村民保養施設「さざり荘」

### 問 指定管理者制度導入の評価・検証は

現サービスの提供結果を踏まえ対応する

### 質問

制度は、多様化する住民のニーズにより効果・効率的に対応するため、公の施設の管理に民間の活力を生かし、住民サービスの向上と、経費の節減等を図ることを目的としている。指定管理者制度導入施設について、効率的な運営やサービス水準の維持・向上、利用者の安全対策など、各施設の現時点のモニタリング（監視・観察・記録・評価・検証）について当初の導入目的に則り適切に運営されているか。

### 答弁(村長)

各施設の現時点のモニタリング、監視・観察・記録・評価・検証は、制度のガイドラインにより、指定管理者自身が必要モニタリング、自己

評価を行うことになっている。事業報告書等の提出を受け、施設の管理状況を把握している。村が求める管理運営の水準が満たされているか、住民の納得のいく現サービスが提供されているかなどの結果を踏まえ対応する。

### 答弁(村長)

大学との連携により、大豆の商品開発や景観整備など様々な活動を展開している。里山まるごと体験学校は、集落に入り、村民と一緒に景観保全活動や伝統行事にも参加し、集落の活性化にも貢献。豊かな土づくりセンターの堆肥を利用し、堆肥使用の有効性を実施するための研究、環境に負荷をかける土づくりが検証されている。結果を公表するなど、連携活動を村民に広報し、村民と共同しながら村の活性化につなげる。連携協定から15年を迎え、抱える課題に対しても大学の持つ知見や技術を授受し取組を加速する。再度連携意義を大学側と共有し、新たな挑戦ができる体制を整備する。

### 問 東京農大と連携協定の成果と課題は

知見や技術を授受し取り組みを加速する

### 質問

特産品開発、循環型農業、山村環境の整備・再生、人材育成、遊休荒廃農地再生などの事業を連携して取り組むこととされている。大学側では、村で実習、試験など専門知識、最先端技術で事業を展開。村は、研究、実習用地を提供し、大学のサポートを実施するとされている。これらの成果と課題は。



森 隆之議員

問

# 教育支援事業の補助額を 年度ごとに見直しは

答

# 金額の見直しよりも 新たな助成制度を作りたい

質問

村の教育支援事業は、学校給食費無償化をはじめとし、学習塾の開設や奨学金制度、能力検定料補助、小・中学校修学旅行助成事業、高校生通学支援金、英語体験宿泊研修などがある。これらの補助額は、全額補助もあるが、金額を定められているも

のもある。

現在の円安、物価高を考慮して、年度ごとに柔軟な補助額の見直しを行う考えがあるのか。

答弁(教育長)

本村においては、様々な手厚い子育て支援を行っている。少子化傾向は続くものの、推計上は緩い減少となるため、学

校は複式には当面ならない。財政的なゆとりというのは今以上生じることがはない。子供が減った分を補助増額というようなことができないと考えている。ただ、現在の景気情勢を見ると、鮫川ならではのさらなる支援の在り方を検討したい。子育て支援に適用できる資金や、新

再質問

たな支援制度を調査、研究し、重層的にさらに支援していく考え。

例えば、鮫川は公共の交通手段が乏しい。修明高校鮫川校がなく、実業高校と合併した。村の周辺に通える高校が少なくなってしまう、

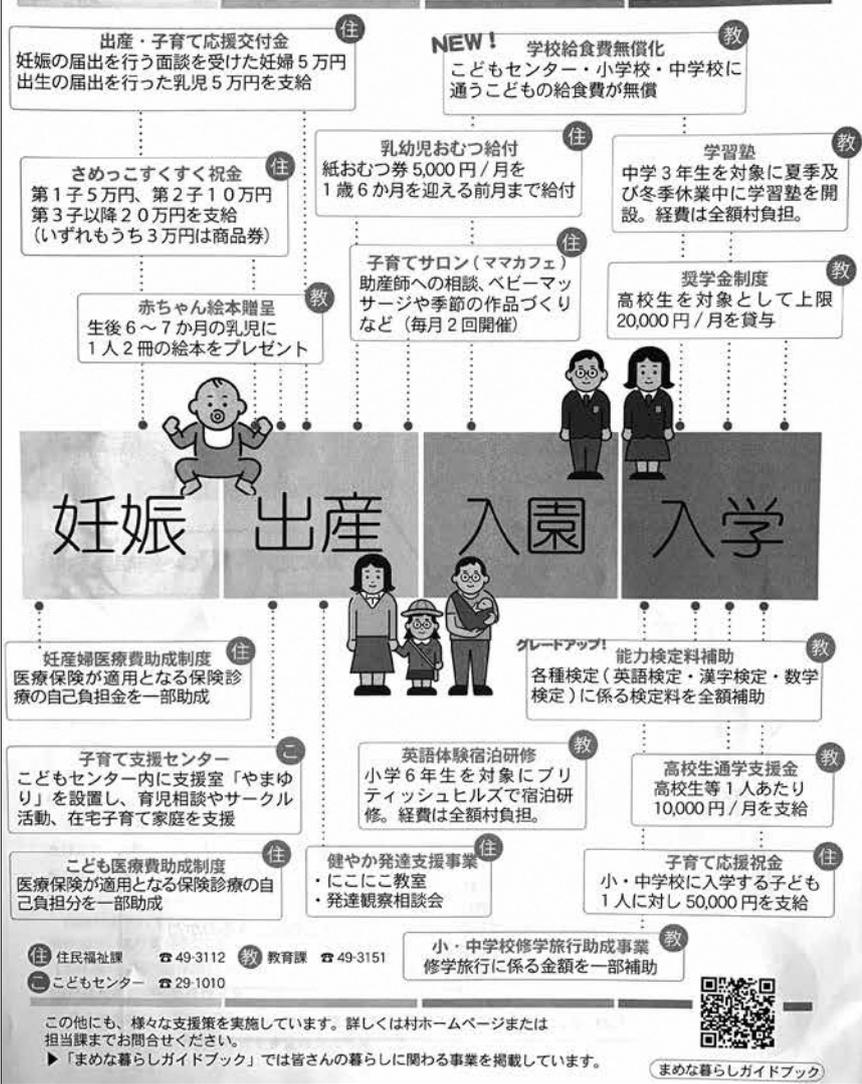
答弁(教育長)

石川町、白河市、郡山市にある高校に行かなくてはならないが、そこまで行く直通の公共交通機関がない。最寄りの駅やバス停までは、保護者の送迎となってしまう。燃料費の高騰もあり、補助額を見直すというような話し合いはできないのか。

高校生の通学支援金については、月1万円というところで、年間12万円の助成をしている。村には70名の高校生がいる。ただ、将来どういふふうになつていくか考えると、そんなに急激には減らない状況である。年々補助額が変化すると兄弟で兄は1万円だったけれど、弟のほうは少しプラスになるといふ不公平が生まれるため、平等に給付、支援できるように制度を検討している。

## 鮫川村子育て支援事業を紹介します

村では、お子さんがいる家庭を手厚くサポートする事業を実施しています。妊娠～高校生までのお子さんがいるご家庭への支援策の一部をご紹介します。



出産から高校卒業まで村の様々な支援制度



森田 重男 議員

## 問 防犯灯の設置は

## 答 設置を進めていく

### 質問

農業者トレーニングセンター第2駐車場に、各イベント、出張や観光旅行などに出かける際に、自家用車を駐車して使用することがある。防犯灯は道路側にあ

るが、駐車場内には設置されておらず、場内が暗い状態である。また、昨今、村内において犯罪等が多発している状況であるので、防犯カメラの設置も必要と思われるが、村長の所見は。

### 答弁(村長)

場内には照明等の設置はないため、夜間は暗い状態になっていることは承知している。他の公共施設との利用頻度を考慮しながら、照明の設置については検討

したい。

また、防犯カメラについては、各施設への設置は施設管理の担当課で適時実施しているが、第2駐車場には設置していない。

なお、村内における防犯対策の一環として、今年度、防犯カメラ1台の設置工事を当初予算に計上しているので、設置箇所についてはどこがより効果的なのか、棚倉警察署と協議しながら設置を進めていく。

### 再質問

村内には457か所あり、最近は、LED灯など設置されているところもあるが、以前の蛍光灯が多く見られる。不具合の連絡は。

### 答弁(村長)

総務課に連絡をもらう流れになっている。よく現状を調べて、即対応したい。

### 再質問

青生野地区において、道路変更により防犯灯が必要な箇所がある。

今後、新設計画はどのようなになっているのか。

### 答弁(総務課長)

新規の設置計画は、毎年、区長から総務課へ要望をもらう。今年度はまだどの行政区からも出ていない。

### 再質問

予算、計画、数量の制限は。

### 答弁(総務課長)

要望があれば順次対応する。

### 意見

安心安全な村には、防犯灯も必要でないか。

防犯灯が必要とされるトレーニングセンター第2駐車場

◀次のページは

一般質問

青戸義之議員・本郷弘義議員



青戸 義之議員

## 問 手・まめ・館運営の施策は

## 答 農産物の販売強化を支援する



加工所の有効利用

### 質問

手・まめ・館施設の老朽化、農業者の基幹産業の発展の拠点として今後の施策とあまり使用されていない製品の加工機の有効利用計画は。

### 答弁(村長)

施設の構造に問題はないが、施設の利用状況、需要の変化を見据えながら、改修、建て替えを検討していく。

鮫川村未来へつなぐ多様な農業担い手応援事業を創設した。

新たな生産者確保に尽力し、農産物の販売強化と売れる加工品の開発に、伴走型で支援していく。

加工所には、急速冷却機や真空包装機、食品の細胞を壊さず冷凍保存できる機器などが設置している。今後は生産が過剰となる夏、秋野菜を冷凍

### 意見

し、給食センターへ納品できるように、加工所内の機器を活用した取組を開始する。生産者及び消費者に愛される施設となるよう取り組む。

### 意見

生産者と協議を得ながら、この機械を運用し、今以上に良い商品開発をお願いしたい。

### 問 義務教育学校の進捗状況は

令和10年度開校を目標とする

### 質問

児童・生徒の減少や小・中学校校舎の老朽化に伴い、義務教育学校設立の進捗状況は。

### 答弁(教育長)

県内で9校開校している。

村としては、少人数の学年を持つ、さらに老朽化した小・中学校を一体化して、1年生から9年

### 答弁(教育長)

順調に進められた場合、令和10年度開校になるかなと思う。これは無理だという意見もあるがそれを目指して適切に、的確に進めていく。

### 意見

教育は人材育成にとって大事なこと。今後、この義務教育学校の設立に向けて、早期実現を希望する。

### 再質問

設立の完了予定時期は。

今後はさらに、学校の平家とか2階とか、そういう内容や設置場所について話し合いを進め、また幅広く知見を求めながら基本構想をつくり上げ、年度内に基本設計を議会に示す。そして、次年度の当初予算に、基本設計について計上できるように努める。



本郷  
弘義  
議員

## 問 道路の停止線区画線の改修を望む

## 答 現道の舗装補修に合わせ整備する

質問

昨年、交通死亡事故ゼロ1000日を達成し振興局長より表彰状をいただいた。重大事故防止のため、道路の区画線、表示線等大変重要。区画線等の計画的な改修はあるか。

答弁(村長)

村道の停止線やセンターライン、外側線が消えている路線がある。林道などを含めると183路線、舗装道路延長が約192キロ

意見

交通事故を未然に防止するために対応を願う。

メートルと長く、全ての路線の区画線等を整備するには多額の費用を要する。安全確保の観点から、整備したいが、財政的にも非常に厳しい。現道の舗装、補修などに併せて整備したい。停止線は県公安委員会が実施主体なので、必要に応じ要望していく。



停止線が消えている村道寅卯平線

高齢者等のスマートフォン利用での危険回避対策は

警察など関係機関と連携しながら、啓発活動や講習会等を開催する

質問

インターネットを利用する高齢者が増えていく。非常に便利な反面、個人情報等の漏洩や特殊詐欺等の被害者となることもある。被害防止のため、安全な利用の啓発活動や勉強会、講習会等の開催計画はあるか。

答弁(村長)

新型コロナウイルス感染症の拡大により、オンライン化が進んでいる。デジタル社会が形成されていく中で、急速に普及していく。

村では昨年度、県の情報リテラシー向上事業を活用し、65歳以上の村民を対象にシニア向けスマホ、タブレット教室を開催した。

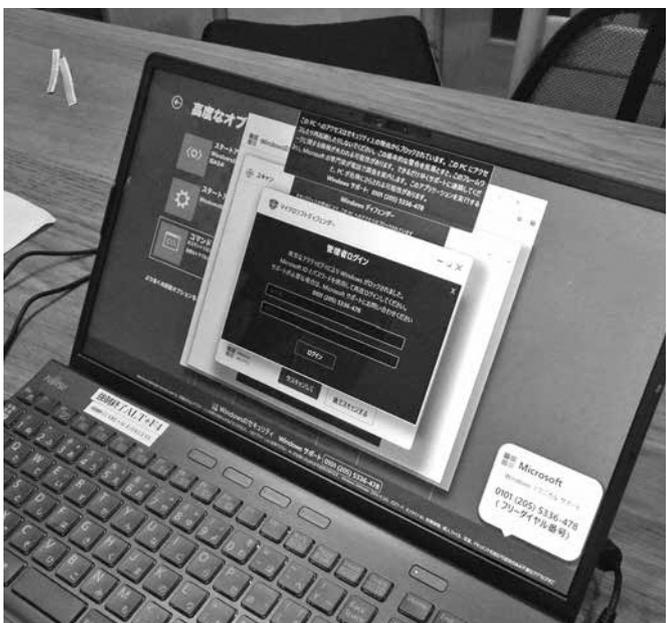
スマートフォンの基本操作やSNSに関する知識の養成などの講習に、延べ18人の参加があった。しかし、個人情報などの漏えいリスクや特殊詐欺などの手口は年々巧妙化している。宅配便業者を装い、偽サイトに誘導され、個人情報流出してしま

うケースなどもある。そうした被害を防止するためにも、生涯学習や消費者行政部門、警察など関係機関と連携しながら、敬老会や社会学

意見

インターネットを正しく使いこなすための知識や能力、ネットリテラシーを高めていくということは、今後ますます必要。村民の安心安全のため、また生きがいづくりのためにも、啓発活動を継続していただきたい。

級など、多くの高齢者が集まる場所での啓発活動や講習会等を開催していきたい。



ロックされた画面

次のページは

一般質問

遠藤貴人議員・窪木浩一議員



遠藤 貴人 議員

問

健康意識の高い村民を  
讃える施策ができないか

答

健康増進になるための  
生きがいづくりを検討したい



多くの病気の原因は生活習慣にあり、運動と食事が健康には特に重要

質問

国の医療費は年々増加している。人口減少と高齢化がさらに加速する中、医療費の負担は増すばかり。公的医療保険制度は、本人負担以外は保険料や税金で

賄われている。医療費が増えれば保険料も上昇し、その負担は被保険者に重くのしかかる。

介護保険料は4月から増額されたが、国民健康保険を運営する自治体として、この問題

をどのように捉えているか。

答弁(村長)

国は令和3年に、同じ都道府県内で、同じ所得水準、同じ世帯構成であれば、同じ保険料と

なる完全統一を実現するため、全世帯対応型の社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律を制定。今後、福島県から令和11年度の完全統一に向けた、標準保険料率として、応能負担と応益負担に係る説明が示されるものと考えられる。

再質問

全国的な国民健康保険事業の問題解決のため、医療保険制度改革を行うものだが、鮫川村のような小規模自治体にとって、どのようなことが危惧されるか。

答弁(住民福祉課長)

今回の定例議会でも国民健康保険税条例の一部改正について提案しているが、令和5年度より令和6年度は保険税が増額になっている。基金を投入することで、なるべく上げ幅が大きくなるが、令和11年以降は福島県内同一の保険税率が設定されるの

で、今の鮫川村の保険税より上がっていくと想定される。

県の動きを注視しながら、それに向けて段階的な変化をつくっていき

再質問

日々の心がけや健康意識の高さによって、国民健康保険を利用されない方も村内にいる。医療制度の利用をばか

答弁(村長)

健康増進になるための、生きがいづくりを検討したい。



窪木 浩一 議員

## 問 公共施設の老朽化等に伴う 今後の維持管理

## 答 公共施設等総合管理計画に 基づき検討する

質問

村管理の公共施設の老朽化、耐震などの問題で現在その機能を果たせていない施設が見受けられ、今後このような施設が増え、利用出来ない建物・空き家が増加すれば、割れ窓現象で寂れた印象を与える要因となる。関係人口増加・定住促進の面でも問題と考える。後世に負の問題を先送りしない様、計画的に解体費用や利活用等を協議すべきと考えるがいかがか。

答弁(村長)

公共施設等総合管理計画に基づき、個別計画を策定、長期的視点で施設の譲渡・解体、売却、集約を含め、今後の施設の在り方について検討を図る。昨年度、旧国保診療所解体を実施し、村の景観を守り寂れた印象を与えない様に、本来の目的を終えた施設を適時処分しようと考えている。



老朽化が進む民俗資料館

問 国道349号の道路改修について

答 建設促進期成同盟会による働きかけを強化

質問

国道289号は道路改修が行われたが、一方で349号はいまだすれちがうのも困難な箇所が多数見受けられ、349号の劣化、不便さを強く感じる。道路の傷みや成長した木々が道に掛かり、その影響で大型トラックなどの交通も困難で、時折り倒木なども見られ交通の妨げに。今後の改修や道路環境の整備などの必要性を強く感じ、村としての働きかけをこれまで以上に期待したいが、実現へ向けて具体的な方針・取組みは。

答弁(村長)

国道349号の道路改修について、国道349号建設促進期成同盟会による各県関係国会議員に対する活動を継

続し、早期実現に繋げる。要望活動の成果として強滝地内の改良も令和6年度で完了予定。残る滝ノ下、大竹、戸草の3か所は、県が現地調査を実施している。道路環境整備について、道路敷地への支障木伐採協力を所有者へ注意喚起を行い、さらには村独自に県南建設事務所



すれ違いが困難な滝ノ下付近

質問

さめがわファンクラブの開設から数年経過し、関係人口創出・ふるさと納税増加など今後の活動に期待したいが展望を問う。

答弁(村長)

さめがわファンクラブは令和3年創設、約九百人の登録、通信発行、ファンミーティング、特産品抽選会を実施、村を応援するファンとの交流を深めてきた。更なる関係人口の創出に向け、誰でも登録可能な関係人口創出アプリ「さめがわむらぶ」を構築、6月から運用開始。さめがわファンクラブにはLINEアプリから「さめがわむらぶ」へ移行し、来なくなる村住んでみたくなる村を目指し、村の情報を発信し村民相互交流も目的とする。アプリでは部活動を発信でき、相互交流に繋がる様な情報提供を頂き愛着を育んで頂けるよう考える。

次のページは

ふるさとへの想いシリーズ(51)です

問 さめがわファンクラブの今後について  
答 アプリさめがわむらぶへの移行で相互交流に繋げる

# ふるさと鮫川への想い シリーズ⑤1

## あの夏の思い出

中学校を卒業と同時に鮫川村を出て、姉と2年間、一人で1年間自炊をしながら高校に通学し、卒業と同時に矢祭町の企業に就職しました。就職と同時に高校に入学した弟と3年間塙町のアパートで生活していました。同じ郡

### ◆プロフィール

- 生年月日：1976年9月2日
- ・青生野小学校卒業
- ・鮫川中学校卒業
- ・東白川農商高等学校（現 修明高等学校）卒業
- ・1995年 SMC株式会社 矢祭工場入社
- ・2015年 結婚



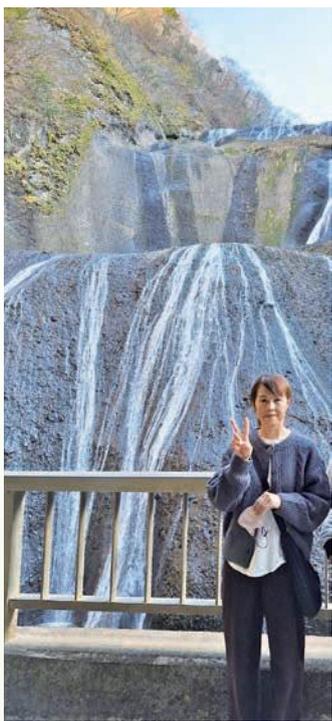
おかの ひさこ  
**岡野 久子**さん(旧姓 岡部)  
茨城県大子町在住(青生野字大犬平)

内に居たので鮫川村は近くに感じていました。中学校の思い出といえば部活のために休日と夏休みは自転車を通ったことです。その頃は部活バスもななくバス通学の人は部活がでない環境でした。私は2年生の時に部活をやりたいと思って、同じ青生野の友人と部活に入りました。親に送迎をお願いして1年ぐらい経った頃に部活バスが行き止まりになりました。青生野の人でも部活ができるようになったのを覚えています。しかし、学校が休みの日は運行がなく、特に夏休みが辛かった。午前中は部活動、午後は水泳の練習。夕方4時頃までやってから

自転車で帰宅するので、鮫川は上り坂が多く、1時間30分かけて帰っていました。今思えばそんな思いをしたおかげで、高校での辛い部活の練習や厳しい先輩方の指導にも耐えられたと思います。

今年の4月に柵倉中学校に通っている姪が、鮫川中学校で練習試合を行うというので、33年ぶりにあの中学校の坂を車で登りながら、校舎や体育館も当時のままで懐かしく思いました。子供の数が減り、母校も無くなることが多い中、自分が通った学校が残っていることに嬉しく感じました。

実家の父と母は去年、金婚式を迎え、元気に二人仲良く暮らしてあります。近くに居ながらなかなか実家に帰れませんが、毎年お



盆と正月は兄弟全員が集まります。4家族20人が揃い、両親にとつて孫が10人、みんな鮫川が好きで全員揃つての記念写真が恒例となつています。

高校を卒業してから務めている会社も早くも30年が過ぎました。職場移動もほぼ無く同じ職場で同僚にも恵まれて、とても良い環境で仕事をしております。鮫川出身者も何人かいて地元の話題で盛り上がることもあります。時折、フェイスブック等で鮫川の写真やイベント案内を目にします。村を活気づけようと頑張っている人がいることに感心しながら、いつまでも応援し見守り続けていきたいと思えます。今も鮫川村にはあの夏の懐かしい風が吹いていると想いを馳せながら。

### 編集後記

今年も猛暑の夏がやってきました。同時に世の中は気温上昇とともに物価高騰、燃料費高騰、円安など、益々生活に影響を与えることが予想されます。わが村も少子高齢化に伴い、消滅可能性のある自治体(若年女性人口が2020年から2050年までの30年間で50%以上減少する自治体)に挙げられています。未来の村の在り方は、村民みんなが協力、一致団結して初めて進められると思えます。皆さんもお体に気を付けて暑い夏を乗り切りましょう。  
(広報編集委員)

